

群馬工業高等専門学校

令和7年度卒業式・修了式式辞

ただ今卒業証書を授与された本科生177名の卒業生の皆さん、卒業、おめでとうございます。そして、修了証書を授与された専攻科生39名の修了生の皆さん、修了おめでとうございます。この良き日を迎えられたことを心から嬉しく思います。

また、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。入学以来、今日までお子さまの成長を見守り支え、学校の教育活動にご協力をいただき、ありがとうございました。教職員を代表して深く御礼を申し上げます。

さらに、ご多忙の中、この晴れの式典にご臨席賜りました群嶺テクノ懇話会会長の鈴木様、同窓会会長の細谷様、後援会会長の吉田様におかれましては、厚く御礼を申し上げます。

皆さんは、中学校卒業後、多くの同級生とは異なり、高等教育機関である本校に入学し、実践的かつ創造的な技術者への道を選びました。

一年生からの専門教育や多くの実験・実習は、新鮮な体験であるとともに、ご苦労や戸惑いもあったかもしれません。皆さんが入学された時期は、新型コロナウイルス感染症によって様々な活動が制限された時期でしたので、慣れないリモートでの授業への対応等にもご苦労されたのではないかと思います。また、寮生だった方にとっては、寮での生活も、親元を離れての集団生活であり、特に最初のうちは戸惑うことも多かったのではないのでしょうか。

毎日の授業や実験・実習の他にも、工華祭や体育祭、社会見学旅行といった学校行事、さらには、部活動、国際交流活動、インターンシップ、各種コンテストなどに参加し、最終学年では、就職や進学に向けた活動をしながら、卒業研究や特別研究にも取り組みました。皆さんは、それらに果敢にチャレンジし、ひとつひとつ乗り越えてきました。

本日、ここに卒業・修了を迎えられたということは、この5年間、7年間で皆さんが大きく成長したと認められたことを意味します。

卒業生の中には、ミャンマー、ラオスからの留学生がいらっしゃいます。故郷を離れ、異文化の中で言葉や環境の違いを乗り越え、勉強に励み、学業を全うされたことに心から賛辞を送ります。今後は、修得した幅広い知識や高度な技術力を、母国や日本の技術の発展に活かし、また、両国の友好親善に努めていただければ、大変うれしく思います。

さて、皆さんは、四月から新しい就職先や進学先へと進まれます。皆さんがこれから歩み出す現代社会は、「VUCA時代」とも言われる、これまで以上に変化が激しく、将来を見通すことの難しい、予測困難な時代です。

例えば、技術の進展の速さは、まさに日進月歩です。十年ほど前には、人工知能が人間のように文章を理解し、絵を描き、言葉を交わすなどということは、多くの人にとって想像の域を出ませんでした。ところが、今では、それが医療や金融、製造業など様々な現場に広く浸透し、社会の仕組みそのものを変えつつあります。

また、働き方も大きく様変わりしました。かつては同じ場所に集まり、顔を合わせて仕

事をするのが当然とされていましたが、現在では、国を越えてオンライン上で協働する時代になっています。働く場所や時間の概念は、もはや昔の常識では語れません。

さらに、気候変動や感染症など、私たちの予見を超える出来事が次々と生じています。数年先を見通すことさえ容易でない今日、社会はかつてなく複雑で、相互に影響しあう存在となっています。

そのような予測困難な時代において、複雑化している社会課題を解決していくために重要となるのが、異なる専門分野を持つ者同士の対話です。自分の専門性を磨くことはもちろん大切ですが、それと同時に、自分とは異なる視点やバックグラウンドを持つ人々の声に耳を傾けてください。専門性の壁を越え、互いの強みを持ち寄り、一つの目的に向かって協働すること。そのプロセスの中にこそ、イノベーションの種があり、困難な課題を突破する力が宿っていると思います。

皆さんには、本校での学びを土台として、ご自身の専門分野のスキルアップを図るための学びを続けるとともに、他者と手を取り合う「共創」の精神を忘れないでいただきたいと思います。皆さんが、多様な個性が響き合う社会の担い手として、新たな価値を創造し、より良い未来を切り拓いていくことを心から期待しています。

皆さんのこれからの人生の中では、順調な時もあれば、努力しても結果が見えなかったり、思いがけない困難に直面したりする時もあるかと思います。

そのような時は、無理に前に進もうとせず、一度立ち止まり、体を休め、十分な睡眠をとったり、スポーツや趣味に打ち込んだりするなど気分転換を図りながら、自分の状況を静かに見つめてみましょう。一人で抱え込まないようにすることも大切です。信頼できる仲間や家族に相談し、言葉にしてみることで、不思議と心が軽くなるものです。自分一人の力で解決できないことも、誰かの力を借りれば乗り越えられることもあると思います。

たとえゆっくりでも、自分のペースで歩き続け、どんな困難も成長への糧に変えていけるような、しなやかで力強い大人になっていただきたいと思います。

最後になりますが、皆さんが本日を迎えることができたのは、ご家族や先生、先輩、友人、後輩、地域の方々など、多くの人達の温かな支えがあったからです。そのことはいつまでも忘れずに、感謝する気持ちや人を思いやる心を持ち続けていただきたいと思います。

皆さんが、自信と誇りをもって一步一步前進し、それぞれの場所で自分らしく輝き続けていくことを心から祈念して、私からのお祝いの言葉といたします。

卒業、修了、おめでとうございます。

令和8年3月19日

群馬工業高等専門学校 校長
大金 伸 光